

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

心の準備もないまま、外出先で、何となくペットを買ってしまう人がいるのは困ったことです。動物を飼えるだけの時間と空間があるか、家族全員がペットを飼うことを心から望んでいるか、新しく加わる「家族」に自分たちの生活スタイルをあわせられるか、そもそもペットを飼うべきなのかどうか。慎重に考えたいものです。飼っているペットを些細な理由から捨てる無責任な飼育者がいる一方で、身上の都合などやむを得ない事情で仕方なく手放す人も少なくありません。これは日本だけでなく、世界中どこでも起こり得ることです。前述したとおり、安定した生活を長くつづけたに思っても事情が変わり、何の前触れもなく生活が一変して、飼っていたペットがホームレスになる可能性があります。誰にでもあります。ただ残念ながら、日本には家を失ったペットを受け入れる「セーフティネット」がほとんどありません。米国や英国をはじめとする動物愛護先進諸国には行き場を失った大猫を引き受けるシェルターが数多くありますが、日本では遺棄動物が選抜をつかむ確率は限りなくゼロに近いのです。日本の場合、ペットを手放さざるを得なくなった飼い主に残された選択肢は、ペットを保健所・愛護センターに託すか、捨てるかなどになります。残念なことには、それ以外の道はほとんどないものか、と悩む人々につけこみ、「動物好き」を装ったり、「疑似シェルター（実際は悲惨な場所）」を運営したりする悪質な人々も後を絶ちません。このようなとき、ペット保管先に自ら出向いてペットの無事を実際に確かめる人はどれほどいるでしょうか。皆無に近いでしょうか。愛するペットが安全なところにも多いのです。どのようなシェルターでも、「から約束」を真に受けてお金を渡す人がどれほどいることか。残念ながらも多いためです。どのようなシェルターでも、運動期間が長ければそれだけ里親と出会うチャンスは少なくなり、トレーニングとリハビリに勉め、手厚いケア、運動、刺激を与えても行動は悪化する傾向にあります。吠える犬の近くに猫がいたり、犬同士が咆え合ったりすることが避けられないシェルターという環境そのものが様々なストレスを生むからです。しかし、家族の一員として迎えられた犬猫の「変身ぶり」には目を見張るものがあります。「シェルター同窓会」で里親さんに連れられてくる犬たちの変わりようはどうでしょう？つややかな毛並み、忠誠心と自信にあふれた態度。他犬への攻撃性など微塵もなく、別の子のように変貌を上げています。この仕事をしてよかつた動物の多くは、言うまでもなく悲しい過去を背負っています。しかし大切なのは、そして、この仕事をしてよかつた動物たちが感じるのは、彼らが幸せな結末を迎えることです。私たちの人生を豊かにしてくれる原動力は、この子たちの存在なのです。

※作問の都合上、省略・改編した箇所があります。（エリザベス・オリバー『日本の犬猫は幸せか』より）

#### 語注

- ・些細（ささい）：いささか。わずか。
- ・セーフティネット：網の目のように救済策を張ることで、安心・安全を提供するための仕組みのこと。
- ・動物愛護先進国：動物愛護の分野に関して、比較的早く進歩した国のこと。
- ・シェルター：避難所。この場合、犬や猫を保護してくれる施設のこと。
- ・遺棄動物：捨てられたり、置き去りにされたりした動物のこと。
- ・から約束：信用性が薄く、危険な約束。ここでは、危険な約束。実行されることのない約束のこと。
- ・微塵（みじん）：細かいちり、微細なもの。
- ・変貌（へんぼう）：姿が変わること。姿を変えること。この場合、性格が変わることも含む。

#### 《設問》

問一

この文章は、第一章「アニマルシェルターとは」の中の「日本の遺棄動物には『セカンドチャンス』がない」と「心に残る犬たちの物語」の一部です。この文章を参考に後の語群の語句をすべて用いて、きみが考える「犬・猫が幸せに暮らすために人間のやるべきこと」を、八〇字以上百字程度で述べなさい。（ただし、指定された語句はどのような順序で用いてもかまわないものとする）

・家族の一員 ・心の準備 ・無責任 ・シェルター ・やむを得ない事情 ・環境 ・里親

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

【二つまでのお話】  
 ハンバートは、荷車をひく馬です。銅い主のフアーキンさんとくず鉄を集めています。ハンバートは、ビール工場でも馬たちをうらやましく思っています。欲しいものは何でも与えられ、ロンドン市長が乗る金の馬車をひくことができるからです。そんなハンバートにチャンスがめぐって来ました。

あるあさの日のこと、フアーキンさんは、ハンバートをビール工場にあずけて、おひるをたべにいきました。うまや、いつになくざわめいていました。6とうの馬が、ねんりに手いれられて、ハンバートがみたことのない、うつくしいひき皮をつけています。ハンバートは、なにがはじまるのか、きいてみました。「なんだ、しらないのか。おれたちは、あした、ロンドン市長さんの馬車をひくんだよ」ハンバートは、ショックをうけました。世の中つて、ほんとうに（A）だとおもって、①夜もねむれませんでした。

つぎの日、ハンバートは、ごぜんちゆうずつと、フアーキンさんといっしょに町をまわりながら、ふさぎこんでいました。「ビール工場の馬たちばかり、いいことずくめだな」ハンバートは、こころのなかでいいました。ビール工場の馬たちにくらべると、じぶんのひき皮はみすばらしくて荷車もふるぼけていることが、よくわかりました。フアーキンさんはやさしい人で、きちんと「からだにブラシをかけてくれるし、うまやも、そうじがゆきとどいています。たつぷりたべさせてくれます。それでもハンバートは、うらやましくて、はらがたつて、みじめでした。

そんなきもちでかどをまがったとたん、道のむこうのはしに、人がたくさんあつまっているのがみえました。ハンバートは、みんなは、なにをみているのかとおもって、いきおいよくはしっていくと、ながいかおで、人ごみをおしわけて、のぞきました。

おおぜいの人たちがみていたものこそ、あたらしいロンドン市長さんをおいわいするぎょうれつでした。ハンバートの目のまえを、あのビール工場の馬たちが、ロンドン市長さんのついている金いろのおおきな馬車を、ひいていくじやありませんか。そのうしろから、やりもちたちがやってきました。ハンバートが、ああ、いいなあとうらやまながらみているまえを、ぎょうれつはゆつくりすすみます。とつぜん、みんながあつと声をあげました。たいへん、馬車の車輪がひとつ、こわれてしまったのです。馬車がぐらつとカタむいて、馬たちがとまりました。あたらしい市長さんのおいわいのぎょうれつで、こんなことがおこつたのは、きょうがはじめてでした。さあ、それからがおおさわぎ。あたらしいロンドン市長さんは、こわれた馬車からおろしてもらいました。おききな自動車なんたいもやってきました。「自動車？」と、ロンドン市長さんはおこっていました。「とんでもない。あたらしいロンドン市長のぎょうれつでは、自動車なんかつかわないのだ。べつ馬車をよういしなさい」

②ハンバートは、いまだ、とおもつて、とびだしました。おまわりさんとフアーキンさんは、あわててとめようとしました。ハンバートはうまくふりかて、市長さんまでまっしぐら。「いや、よくきてくれた」と、市長さんがいいました。「なあ、きみ、ぎよしやといっしょにわたしを市役所までつれていってくれないか」

みんながはくしゆしました。③しなかつたのは、おやとくにんちだけ。というわけで、市長さんが荷車にのると、ふるいガスレンジにこしかけました。みんなは、またはくしゆしました。まめつぶみたになつてしましました。ビール工場の馬たちは、ハンバートがとくいそうにはやあしですすんでいくのを、びつくりして、おとなしくみおくりました。

市役所につくと、市長さんは、カメラマンや新聞記者にたのまれて、ハンバートとフアーキンさんといっしょに、しやしんをとりました。それがすむと、市長さんは、だれかが、ふうとうをもつてくるから、ちよつとまっていてくれ、といつて、市役所にはいっていきましました。フアーキンさんがうけとつたふうとうには、らいしゆうひられる、市長さんのおいわいのえんかいに、ハンバートとフアーキンさんを、しようたいする手紙がはいっていました。

りつばなえんかいでした。フアーキンさんとハンバートは、市長さんのひだりがわのせきにすわりました。総理大臣はじめ、ゆうめいじんが、たくさんきていました。フアーキンさんは、これはえらいことになったと、すこしこまつていました。

えんかいがおわると、市長さんは、フアーキンさんとハンバートが、じぶんを、ぶじに市役所までつれてきてくれたことに、おれいをいいました。そして、きねんのカップを、ハンバートにおくりました。市長さんは、ハンバートが、ビール工場の馬とおなじように、一ねんにいちど、おやすみがとれるようになってくれました。いなかで、のんびりくらせるようにも、してくれました。それは、はたらく馬たちみんなのねがいでした。

ハンバートは、あのぎょうれつの日のことと、えんかいの夜のことは、けつしておすれませんが、もちろん、フアーキンさんもおすれませんが、市長さんのカップは、ハンバートのうまやにかざつてあつて、フアーキンさんがいつもみがいています。

いまでも、ロンドンの町の人たちは、いらなくなつた金ものを、あつめてまわるハンバートとフアーキンさんを見かけると、「やあ、ロンドン市長さんを、市役所にはこんだ馬がきたぞ。ほら、あのはなし、おぼえてるだろ？」と、うわさしています。

注 ※ぎよしや（御者）…馬を扱う人。馬車の前に乗つて、馬を扱う人のこと。

（ジョン・バーニンガム作・絵  
 『はたらくうまのハンバートとロンドン市長さんのはなし』より）

※作問の都合上、省略・改編した箇所があります。

## 《設問》

※すべての問の制限字数には句読点・符号を含むものとする。

問一 この文章から読み取れる「フアーキンさん」の性格を三十五字以内で簡潔に書きなさい。

問二 この場面のハンバートの気持ちを表す漢字三字の熟語を答えなさい。

問三 線部①「夜もねむれませんでした」とありますが、この時、ハンバートはどんな気持ちでしたか。三十文字以内で簡潔に説明しなさい。

問四 線部②「ハンバートは、いまだ、とおもつて、とびだしました」とありますが、この時のハンバートの気持ち、ハンバートの「ねらい」を明確にして、三十文字以内で簡潔に説明しなさい。

問五 線部③「しなかつたのは、おやくにんたちだけ」とありますが、なぜですか。「おやくにんの立場」を考

問六 このお話が私たちに与えてくれる「教訓」は、どのようなものだと思いますか。簡潔に説明しなさい。